

ねじりはちまき

2月 如月(きさらぎ) 立春 雨水の月になりました。
2月3日は節分です。4日、立春。8日、針供養です。
建国記念日は11日。初午は12日。バレンタインデー14日。
18日は雨水です。

今年は酉年ですね。皆様ご存知の事ですが、酉年は縁起の良い年で、「取り込む」という語呂合わせから、福や運氣を取り込める良い年だといわれています。

また、明け方に鳴く鶏は、元旦一番に鳴き声をあげる吉鳥とも伝えられています。

今年は水と鳥の年です。ゆるやかな水の流れに、水鳥やアヒルなどが浮かんでいるような、なごやかで豊かな1年にしたいものですね。

私共も幸田建設でよかったといわれる事を念頭において、一生懸命頑張ります。

どうぞ、よろしく御指導の程お願いいたします。

季節は春に向いています。雪見酒、梅見酒、ぬるめの爛で…
いいですね。(^^)

幸田 常一



本宮市の現場で、新築工事をお世話になっております。
広い敷地内に住宅と作業場を建設させていただいており、
また、店舗の建設工事も始めさせていただきました。
完成が楽しみです。

「シンネンカイ」

「梅一輪一輪ほどのあたたかさ」との句がありますが、冬至の頃と比べ、随分日が長くなり、何となく春の気配を感じられる様になってまいりました。

皆様方、如何お過ごしでしょうか。

今年の冬は、寒暖の差が激しく、体調を維持するのに、苦勞しておられる方が多いかと存じます。お陰様で私はこの冬も元気一杯で越冬できそうです。

さて、正月といえば新年会祝賀会(以下「新年会」と書きます。)が開催される季節ですね。私は今年の5月で86歳になりますが、耳が遠くなり、また判断力も衰えるなど、一人前の行動が出来にくくなっておりませんが、本年も3回の新年会に参加することにしております。

1回目は、1月の中旬にOB会の新年会がK市のホテルで開催されました。この新年会には、会員に加えて現職の幹部の方々と、若い方々の代表等70余名の参加者があり、苦勞話に花を咲かせました。

参加者全員が幸せ一杯のご様子、皆様から元気を頂く事が出来ました。折角楽しみにしていたのに、体調を崩して欠席を余儀なくされた方もありましたが…。欠席された方に思いを馳せながら、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

2回目は、1月下旬に、私が入れて頂いている山岳愛好会の新年会がM町の温泉旅館で開かれて、これにも参加いたしました。20名の会員中、17名が出席しましたが、K市からの送迎バスを出して頂きました。温泉旅館に到着して、温泉に入り疲れを洗い流した後、山海の珍味を肴に祝宴となりました。祝宴の後、ゲーム等で一段と楽しく過ごす事が出来ました。参加者全員が幸せそうな顔。まるで、この世の幸せを独り占めしているかのようでした。時の経つのも忘れて、幸せな1日を過ごす事が出来ました。

3回目の新年会は、2月中旬に地域内の集会所で、H会というお年寄りが一堂に会しての新年会です。

本日、出席者の名簿が届きましたが、元気な仲間にお会い出来ると、今からワクワクしております。

この様にして、今年も新年会に参加させて頂けることは、大変有難い事ですが、これはひとえに、

- 1、 丈夫な身体に育ててくれた今は亡き両親。
 - 2、 日頃の健康管理に心を砕いている家内。
 - 3、 新年会の開催にご尽力頂いている会長様はじめ役員の方々。
- に、心から感謝しなければならないと思う次第です。

植物は“知性”をもっている

題名は「植物は“知性”をもっている」という出版物から取った。縁あって、その本を入手することができた。共著になっていて、著者は共にイタリアの方で一人はイタリア・フィレンツェ大学農学部教授のスタファノ・マンクーゾという人、もう一人は科学ジャーナリストでアレッサンドラ・ヴィオラという人である。著者の植物を観る視点が大変興味深く、魅かれるものがあったので、今回はこの本の中からいくつか紹介したいと思う。著者のいう“知性”とは、「問題を解決する能力」であるという。実はこの知性を巡っては古代ギリシア時代の当時から既に「植物に知性ありや」の疑問が提示され、様々な議論が交わされてきているとのことだ。しかし、これまで人類の文化に巢食っている先入観や思い込みを打ち破るのは容易ではなかったが、それを打ち破るチャンスがようやく訪れたと著者はいう。この数十年に蓄積された実験結果のお蔭で、植物は予測し、選択し、学習し、記憶する能力をもった生物だということが認められはじめているという。そういわれてもにわかには信じ難いと思うのが普通だろう。小生もまだピンとはこないでいる。なぜそうなのかというと、それは動物と植物の違いに着目した先入観のせいかも知れない。確かに植物は移動できないし、動物にあるような頭脳を始め個々の器官は備わってはいない。ところが、動けない植物は動物とは違う方法で進化し、モジュール構造でできた体をもつようになったというのだ。モジュール構造というのは、たくさんの構成要素が機能的にまとまった構造で、各部分は交換可能なのだ。どうもこれだけではわかりにくい。動物と比較していうと、動物の体の各器官はそれぞれ一つずつしかなく、取り換えがきかない。そのため、体を切り分けることなどできない。でも植物は動物と違って、切り分けられても生存が可能なように体の仕組みを造りあげたということだ。つまり、植物は「司令センター」を無数にもつ分割可能な生物なのである。そうでなければ草食動物に噛まれただけで植物は死んでしまうことになるから、巧みな進化を遂げたわけである。この点が動物と植物の本質的違いといえる。また、人間が植物の恩恵を受けつつも、植物を深く理解するうえで超え難いハードルでもある。どれだけ植物の立場に立って考えられるかということかも。先に植物は移動できないといったが、「動かない」わけではない。「動くリズム」が余りにもゆっくりし過ぎて、人間の知覚で捉えられないだけだ。でも、最近では写真技術と撮影技術の進歩により、その動きが録画・再生することが可能になったのは、ご承知の通りだ。次に著者は、人間のもつ五つの感覚（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）すべてを植物ももっているという。もちろん植物の五感はどれも、植物ならではの発達を遂げており、人間のそれとは違う。例えば、視覚と言えば「人間の目」をイメージするが植物はそういうものもっていない。が、視覚を「光の感覚」や「光学的な刺激を知覚する能力」と定義するならば、植物は間違いなく視覚をもっているといえる。しかも、かなり発達した視覚能力を備えている。光は植物が光合成によってエネルギー補給するための基本的要素だ。そのため、植物は光を取り込み、利用し、光の質と量を識別することができるというわけだ。もっとこの話題を続けよう。一体植物はどうやって光を感じとっているのか。実は、植物の内部では、いくつかの化学物質が光受容体（光を感知するセンサー）として機能している。植物は光がやってくる方向とその量についての情報を光受容体から受け取り、それを自分の体の各部分に伝達することができる。光受容体の大部分は、光合成のための特別な器官であるところの葉のなかにあるが、それだけでなく、全身に亘ってもっているという。ところで植物が「目を閉じる」ことがあるのか。実は秋になり、落葉すると目を閉じ、冬は眠りにつく。これはご存知のように、光が弱く、寒さが厳しい時期を越すための知恵だ。次に嗅覚の話に移ろう。植物のにおい感覚器は、植物の体全体に散在している。つまり、植物を構成する細胞の表面に揮発性物質を捉える受容体が備わっていることが多いのだ。だが、嗅覚情報は何の役に立つのだろうか。実は、植物は「におい」によって、もっと正

確に言えばBVOC（生物由来揮発性有機物）の微粒子によって、周囲の環境から情報を得たり、植物同士や昆虫とのコミュニケーションを図ったりしているということだ。一方、植物は自分でもにおいを作り出す。植物の発するにおいは、明確な意味をもつメッセージであり、「言葉」ともいえる。例えば、差し迫る危機の警告や、誘惑や拒絶のメッセージなどを伝えている。被子植物は特有のにおいを発して、花粉を媒介する昆虫とコミュニケーションを図っていることはよく知られている。警告を発する植物とえば、トマトは草食の昆虫に襲われると、数百メートルも離れている場所の植物にも警告が届くほどの大量のBVOCを出すそうだ。でも「におい」についてはまだわからないことが多いとのこと。次に嗅覚と密接な関係にある味覚について触れたい。植物の場合、味覚の感覚器とは、栄養素として使われる化学物質を取り込む受容体のことをさし、それは根にある。植物はその根を地中に張り巡らせて、栄養素となる化学物質を探しまわるのだが、微小な化学物質をきちんと識別し、的確に見つけ出すのだ。そして栄養素として吸収する役割を果たす。この植物が行っている地中探検を、著者は最高のグルメであり、肥えた舌をもっていると言っている。言われてみるとそうかなと思う。一方、栄養素の吸収を根に依存しない植物もある。ハエトリグサなどの「肉食植物」である。昆虫を捕らえて殺すことができる技を有する。そして栄養源として食するのだ。この肉食植物は世界に約600種あるという。次は触覚の話に移ろう。果たして植物は触られたことに気づいているのだろうか。それには、オジギソウを観察すればあきらかだ。軽く触れただけで葉を閉じる。これは触覚がなせる技で、身を守るために行っている自覚的な行動なのだそうだ。植物の触覚は、聴覚と深く結び付いていて、どちらの感覚も「機械受容チャンネル」と呼ばれる小さな器官が使われている。これは植物のどの部分にも見られる器官だが、特に外界と直接接触する表皮細胞に密集している。先程のオジギソウのことだが、特に発達した触覚をもっていて、刺激の種類を区別する能力をもっているということだ。つまり、ある刺激が危険でないと分かれば葉を閉じないといった具合に、刺激に応じて自分の行動を変えることさえできる。というのだが、信じられますか。これも研究の成果ということなので、如何とも。

次は聴覚の話である。聴覚の有無については論争的になっていたとのこと。植物には人間の話が聞こえているのだろうか。もちろん植物には人間のような耳はない。これまでいくつかの植物の感覚の在りようをみてきたが、耳がないからといって聴覚がないとはいいきれない。ではどうか。実は、人間を初め動物は音の運び屋として空気を利用しているが、植物は土を運び屋として利用している。つまり、土は振動が非常に伝わりやすいので、地中では音を聞くための耳介は必要としないのだ。つまり、植物の一個体を構成するすべての細胞が振動をとらえることができるというわけだ。よくできているものである。そこで一つ話題を。音楽が流されるなかで育ったブドウは、全く音楽を流さずに育てられたブドウよりも生育状態が良く、味も優れていたという。これはブドウばかりではないようだ。以上人間の五感に相当する植物の五つの感覚を概観してきたが、植物にはそれ以外に15の感覚があるというのだ。例えば、地面の湿り具合を正確に測定したり、かなり遠くにある水源を感知したり、重力を感知したりする能力である。今回はこれで終わりとしたい。

歳を重ねたため、身体が意のままに動かなくなって参りましたが、来年も再来年も新年会に参加出来れば、誠に有難いと思うこの頃です。

K・S 記

* * * * *

^{りっしゅん} 「立春」

2/4 (土)は、立春ですね。
今日から春ですよ(^^)ということですね。
暦の上では春でも、吹く風はまだ冷たく、寒い日が続きます。
お体大切に…。
八十八夜や二百十日は、この日から数えて決めます。

.....

^{くわ} 「葛」

寒い日は、何だか葛湯が飲みたくなります。
葛は古くから、私たちの生活に密着した食べ物のひとつかと思えます。
葛粉は葛の根茎から作られたもので、体を温めてくれる効果があります。また、風邪予防や整腸作用、高血圧にもよいとされています。
風邪のひき始めに、葛根湯を服用される方もいるでしょう。
葛湯、葛きり、葛餅、他にも唐揚げの衣にしたり、あんかけのトロミにしたり、葛は幅広く使えますね。

.....

2月の花

「福寿草」フクジュソウ

冷たい風が吹く寒い冬の庭で、雪を押しつけて咲く福寿草を見たことがあります。こんなに寒いのに、もう咲いてしまっただ大丈夫なのかい?と思うほど。

福寿草は、福を招き長寿を意味するとして、古くから日本人に親しまれてきた花です。春の到来を感じさせてくれる花でもありますね。

節分の「福茶」

2月3日は節分。
豆まきの後は、年の数だけ豆をいただきます。
ですが、そんなにたくさんは食べられませんね。

豆まきの後は、豆を食べる代わりに縁起の良い福茶はいかがでしょう。
おいしいですし、体も温まります。

- 豆3粒…「3」は吉数。香ばしく炒った方がおいしいかも。
まめまめしく働ける。
- 結んだ昆布…よろこぶ(よろこんぶ)。
- 梅干し…松竹梅。
- 山椒…香りで邪気払い。(入れても入れなくても)



お椀に入れて、番茶や煎茶を注いでいただいで下さい。
熱湯を注いでいただいでいてもおいしいです。

* * * * *

<会社近況>

2月になりました。
毎日寒いですね。どうか、お体大切に…。
昨年より本宮市の現場で、工事をさせていただいております。
住宅と作業場に続き、店舗の建設も始めさせていただきました。
色々あって、店舗の方が早く完成しそうです。
現場は毎日寒いですが、今年は雪が少ないのでたすかっています。

本宮市の現場に続き、こちらも本宮市なのですが、住宅の新築工事をさせていただくことになり、工事が始まりました。

平成29年 2月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
☎ 0243-44-3816

(後記)

今年は89歳のじいちゃんが豆まきをして
くれました。じいちゃんの後ろを曾孫たちが
ついて歩き、1才の曾孫は何が行われている
んだ?といった様子でしたが、一応豆を拾って
いました。また来年もやってもらおう。(事務員k)